

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970700161		
法人名	社会福祉法人 栲の木福祉会		
事業所名	グループホーム しらふじ		
所在地	高知県四万十市右山1973番地2		
自己評価作成日	令和元年12月24日	評価結果 市町村受理日	令和2年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※地域の中でその人らしく生き生きと光輝ける環境づくり ※互い信頼し合える馴染みの関係づくり
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhou_detail_022_kihon=true&JgyosyoCd=3970700161-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和2年2月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地の小高い丘の住宅街にある事業所は、別法人運営の病院と母体法人運営の養護老人ホームと同じ建物内に位置し、併設の養護老人ホームとは防災訓練や日々のケアにおいて協力体制にあるほか、隣接の病院は協力医でもあり、何かあればすぐ診察を受けることが可能で、利用者、家族、職員の安心につながっている。 昨年着任した管理者はグループホームでのケアは初めてだが、それまでの居宅介護支援事業所でのケアマネージャーとしての豊富な経験を活かし、事業所生活が在宅での生活と変わらない過ごし方となるよう、職員と一丸となって努めている。 ADLの低下を招かないよう、併設の養護老人ホームのホールで近隣住民も参加して月2回行われている健康体操に利用者を参加させ、地域住民との交流も兼ねている。 職員は、真心を持って利用者へのケアを行っている。そのことは、職員個々の利用者への接し方や、職員とのヒアリングから裏付けられた。職員が皆、「お年寄りがなにより好き」と言っていたことが印象的であった。
--

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会などで理念を周知している。常に理念を念頭に置き、職員会やカンファレンスで話し合い、職員の意思統一を図りながら、実践につなげている。	「地域の中での生き生きと輝ける環境づくり」、「互いに信頼し合えるなじみの関係づくり」という理念を実践するため、年間目標、月間目標を職員の話し合いで定め、そのとおりのケアができたか職員会で振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設している養護老人ホーム主催の運動会や秋祭り、近隣保育所や小学校との交流会に参加し、地域との交流をしている。	近隣の保育所、小学校との交流を行っており、併設の養護老人ホームとの共同での秋祭りには、多くの近隣住民の参加がある。町内会にも入会している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の養護老人ホームとの合同ではあるが、秋祭りやバザーに地域住民に来てもらったり、小学生との交流会、保育園児との運動会がある。また、看護学生の実習も受け入れている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では日頃の活動報告、利用者の状況報告などをして、質問、要望を受け、サービス向上につなげるようにしている。ヒヤリハットなども報告することで、対策などについて幅広く意見も得ており、参考にしている。	家族代表、区長、民生委員、市、地域包括支援センター職員の参加を得て、事業所からの報告に対して活発な意見交換がなされ、双方向的な会議となっているものの、事業所の直面する課題に関する協議はなく、サービス向上に活かせていない。議事録も家族に送付されていない。	外部評価結果、目標達成計画の内容も協議議題として外部からの助言をサービスに活かすことを期待する。また、議事録の写しを家族に送付し、家族に運営推進会議の周知を図ることを併せて期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や、日頃の報告、連絡、相談を行うなどの機会を通して、事業所の運営や個別ケアに関する助言を得るなどして、協力関係を築いている。	市担当職員、地域包括支援センター職員とは、運営推進会議をはじめ、日ごろから頻繁に質疑応答、意見交換を行っており、何でも相談できる関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に利用者の姿が確認できるように見守りを行い、安全を確保し自由な暮らしを支援するための工夫に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は内外の研修を受け、職員会での研修報告も行っており、身体拘束をしないケアを意識している。管理者は、職員のスピーチロックに特に留意している。日中玄関の施錠はせず、外出傾向の利用者が一人いるが、見守りで対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対して強い口調やケアがあれば、お互い注意し合ったり、話し合いを行なうことで、虐待の徹底防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修には参加しているが、実際の対象者はおらず、今後も引き続き研修への参加を行い、対応できる体制を整えていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約の際は、十分に説明を行い、納得を得たうえで手続きを進めていくようにしている。改定が行われた際には、その都度契約書を送付し、署名、捺印を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族会では家族のみで話し合う場も設けている。家族の面会時には、気軽に意見や要望等を言ってもらえるよう声掛けしている。日常生活の関わりの中で利用者、家族の意見や要望を汲み取り、月1回の職員会で話し合っている。	家族からの意見は機会ある毎に把握するようにしているが、感謝の言葉が大半で意見は出てこない。家族会でも家族だけで話し合う場を設けているが、格別の意見は出ておらず、運営への反映に至っていない。	匿名で家族アンケートを実施する等の工夫により、家族の本音を知り、ケアや運営に活かしていくことを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話の中や職員会等で、職員それぞれの意見を聞き、問題点等を話し合い、代表者会や主任会で現状報告を行うなどして、運営に反映させている。	職員会のほか、日常業務においても管理者は職員から意見を聞くようにしている。業務省力化のため一度は食事をすべて外注に切り替えたが、味気ない、美味しくないという職員の意見で、週5日間は職員手作りの食事に戻した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員7名体制とはなっているが、勤務を調整し、有休休暇が所得できるような工夫や、週2回の調理済み食材を調達し、買い出しに受ける時間を確保する等、働きやすい環境づくりに向けての工夫を日々実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人に人材育成部を設け、法人内外の研修案内や個人面談、ストレスチェック等を実践し、職員一人ひとりのケアに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との勉強会や、3ヶ月に一度の市グループホーム連絡協議会に参加し、他事業所と交流することで、意見交換等を通してサービスの質の向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の行動、表現を見ながら、不安な様子などに気づき、本人の要望等をゆっくり聞いて、求められていることが理解できるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から本人の生い立ちや、生活環境等を聞くとともに、家族の要望や、不安なことなどを傾聴し、事業所としての対応方針などを十分説明して、取り組み後の報告もその都度行いながら、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活歴や既往歴を把握し、家族の要望や、これまでのサービス提供関係者から情報を得ながら、事業所での対応や状況に応じて地域包括支援センターに相談、調整するなど、他のサービス紹介も含めて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と日々共に過ごして行く中で互いに安心感、安定感が保てるよう、関わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が、支援している、支援されているという一方的な関係ではなく、両者の関係を踏まえ対等な関係を築いて行くことに努めている。職員が関わることにより、利用者と家族の距離が離れないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しくしていた友人、知人との関係が途切れないよう、面会に来やすい事業所になれるように心掛けて、対応している。	毎月必ず友人、知人の来訪がある利用者もあり、馴染みの人との関係継続のため、事業所はゆっくり利用者で過ごせる環境づくりに配慮するとともに、再訪を依頼している。馴染みの場所への訪問としては、利用者全員が在宅時と変わらず近くの神社への初詣を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士楽しく過ごす時間を大切に、毎日お茶や食事の時間を職員も一緒に取り、多くの会話を持つことで、個々の心身の状態や気分、感情等の変化を注意深く見守るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が他の事業所等に移った場合には、次の事業所でも安心して暮らせるよう、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思い、希望に沿えるよう職員全員での話し合いを持ちながら、一人ひとりの希望に応えられるよう努めている。	利用者の思いや意向を把握し、ケアに活かしていくことは最も重要だと管理者は考えている。職員が聞き取った一人ひとりの思いや意向はケアプランのサービス計画書に記録して、情報共有のうえ、可能な限りケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、利用者の過去を紐解きながら、利用者が自分らしく暮らせるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりのできることを、日常の暮らしの中で職員全員が把握できるよう、見落としのないように努め、職員の話し合いの場を設けて、確認し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の気づきや利用者の変化を毎月の職員会で報告し、情報共有をしている。また、記録を基に介護計画の見直しを行っている。家族からの要望、意向、気づきについても聞き取り、介護計画書に反映している。	利用者一人ひとり担当職員制となっており、モニタリングは担当職員が、アセスメントは管理者が行い、カンファレンスで職員全員で話し合っケアプランにつなげている。家族の意向も踏まえ、3ヶ月毎の定期的な見直しのほか、利用者の状態に変換があれば、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日常や状態に変化等あれば、気づいた職員が記録を行い、ケアにつなげている。また、ケアに反映できていなければ、職員同士が確認するよう心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況に応じて、健康管理や通院等の必要な支援に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月毎に訪問理美容があり、利用者の希望に合わせて利用してもらっている。馴染みの美容院に家族と行く利用者もいる。また、運営推進会議に民生委員、地域包括支援センターの職員の参加があり、意見交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診以外にも、本人、家族の希望で他医療機関への受診、訪問歯科診療に来てもらうケースもあり、適切な医療が受けられるように支援している。	2名の利用者が入所前からのかかりつけ医に家族同行で受診し、後の利用者は協力医をかかりつけ医として希望し、職員同行で受診している。専門医受診は家族同行だが、家族の同行が困難であったり、本人のくわしい生活状態を伝える必要がある場合は、職員が同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護があり、利用者の状態変化、異常に気付いた場合は相談し、適切なアドバイスをもらいながら、ケアや健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院時には、介護サマリーやフェイスシート、介護保険証などを準備し、入院中途には、状態把握のためにカンファレンスに出席しながら経過観察も継続し、家族とも連携を取って、状態変化に対応できるよう体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、状態の変化を日々家族に報告し、より充実した介護施設の情報提供を行い、同意を得た場合には入所申込書等を手渡している。	入所の際に重度化時に事業所のできることを、できないことを説明し、納得を得ている。入所後本人が重度化した場合には改めて家族と対応を話し合い、できる限りの対応をすることとしているが、これまでは母体法人運営の近隣の特別養護老人ホームへの入所か入院が選択されてきており、看取り実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は消防署で応急手当や、初期の対応の講習を受け、身につけている。また、訪問看護師による処置の仕方などのミニ勉強会も不定期に開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアル作成をし、避難訓練を行っている。地域住民にも協力をお願いしている。避難訓練、経路の確認、消火器使い方の訓練を定期的に行っている。	年2回、消防署の立会を得て併設の養護老人ホームと合同で防災訓練を行い、区長その他の地域住民の参加がある。夜間の避難訓練も行っているが、利用者避難に40分近く要する等現実的ではなく、対策を見直す必要がある。非常用備蓄品は3日分があるが、消費期限切れのものがあつた。	夜間は職員が1人しかおらず、利用者の避難には地域の協力が不可欠であることから、運営推進会議を通じて災害時における地域との協力関係を構築することを期待する。また、管理台帳を用いて非常用備蓄品の消費期限を管理することを、併せて期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりのプライドを尊重しながら、プライバシー確保を徹底し、職員同士の話し合いも行っている。	利用者の尊厳を守るため、本人を決して否定しないことを職員に徹底している。また、トイレ誘導の声かけや失禁時の介助では、本人の羞恥心に配慮し、周囲に分からないようさり気なく行う等、プライバシーを損ねないケアに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者が希望していることを確認し、それに合わせて、声掛けや自分が選びやすいような工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、その時々本人の気持ちや希望を尊重して、職員の都合やスケジュールにあてはめず、見守りながら利用者に合った暮らしの支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れや汚れには常に気をつけ、利用者に声掛けや話し合いを行っている。利用者によっては馴染みの美容院に通う支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえなどをしてもらい、職員と利用者が同じテーブルを囲み楽しく食事ができることを大切に、食後は職員と一緒に片付けができるよう声掛けなどの工夫を行っている。可能な利用者には、皮を剥ぐ、切るなども行ってもらっている。	希望を聞いて職員が献立し、食材買い出しのため週2日は業者からの配食を受け、残る5日間は事業所で調理している。ちらし寿司、焼きそば等、献立はバラエティーに富み、利用者は食事を楽しんでいる。準備、後片づけも、利用者ができることを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立を作成し、摂取量を記録して、職員全員が把握できるようにしている。水分摂取量も、利用者一人ひとりが好む飲み物や形態を工夫し、摂取しやすくするよう、職員全員が意識している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、利用者本人ができない場合は介助することで、口腔内の清潔保持に努めている。義歯の不具合については歯科医に相談し、調整してもらっている。義歯洗浄剤も使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の自尊心に配慮し、様子を見て、身体機能に応じて手を差し伸べたり、歩行介助を行っている。排泄をチェックし、尿意のない利用者にも時間を見計らってトイレ誘導している。紙パンツ、パット類も本人に合わせている。	利用者一人ひとりの排泄状況を把握し、個々に応じてトイレ誘導している。おむつの使用者は2名で、その他の利用者は紙パンツにパットを併用している。排泄自立の利用者が5名いる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者に対しては、歩行運動、肛門周辺マッサージ、ラジオ体操、水分補給などを徹底し、便秘予防に取り組んでいる。便秘が長期化した場合にはかかりつけ医に相談し、指示の基に下剤等の使用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の羞恥心、恐怖心、負担感などへの配慮を行うことで、楽しく入浴ができるように努め、拒む利用者には、時間をおき別の職員が声を掛けたりする工夫で入浴支援を行っている。	毎日入浴支援ができるようにしているが、平均すると週3日の入浴となっている。入浴剤を使ったり、ゆず湯にしたりして、利用者にゆっくり入浴してもらっている。入浴拒否の利用者が1名いるが、声かけの工夫で入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。利用者の個々に合わせ、日中の活動の中で安心した時間の過ごし方等に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用時は職員2名で確認し、利用者の名前を読み上げながら、本人に手渡す際にも声を出し、名前を確認してもらうことで、誤薬を防ぐための取り組みをしている。また、飲み込み確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者にあった手伝いや役割をお願いし、やりがいのある気持ちを持って生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行困難な利用者は車いすを使い自立歩行の利用者と一緒に外出できるよう、支援している。利用者の希望の場所や、季節を感じられる場所へのドライブなどの外出支援を行っている。	リビングからテラスに出られるようになっており、天気の良い日には全員が外気浴をしている。丘の上の事業所の前を通る道路は坂道で、車いす利用者も多いことから、外に出るの散歩は行っていない。年4回、車を使って花見、外食等の外出支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、少額のお金を所持している利用者もいる。家族からお金を預かり、事業所が管理する利用者もいる。外出時や事業所内に衣料販売などがあれば、職員が付き添い一緒に買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人からの手紙や電話などがあった場合には、本人とやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品等は、高齢者にとって懐かしく使いやすい物を選んで置いたり、フロアへの飾りつけや家具の配置は利用者と職員と一緒にやっている。	リビングからの眺めはよく、市内が見渡せる。大半の利用者が日中過ごしているリビングは明るく、開放的で、壁には利用者の作った飾りつけが行われ、広報誌の行事写真も掲示されて、和ませている。毎年専門学校からの実習生が記念に残している飾り付けは個性的で、楽しませてくれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が一人になりたいと思うときにはそっと見守り、気の合った利用者同士には、一緒にくつろげる空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安らぎを得られるよう、馴染みのある物や古い物がある居室環境を目指して、職員、利用者、家族と相談しながら、支援に努めている。	各居室にはベッド、洗面台、クローゼットが備え付けられ、クローゼットにたっぷり収納できるため、どの居室もすっきりとしている。本人の使い慣れた物の持ち込みを依頼しており、テレビを持ち込み、家族写真を飾るなど、居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、一人ひとりの分かる力を見極め、物の配置等に気を付け、職員間で意見を交わしながら環境づくりに努め、安心して生活が送れるよう工夫している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない